

現在 65才以上の人口の割合が総人口の25.9%をしめ、4人に1人が65才以上という「超高齢社会」になっているのをご存知でしょうか？さらに75才以上は12.5%となっており、8人に1人の割合となっております。なんとということでしょ—あらためて数字でみてみると驚きますね。さらに、このあと30年後くらいにはもつと寿命は延びると言われております。ということは、サラリーマンですと定年してから亡くなるまで25年〜30年くらいあるわけです。仕事をしていた年数と定年してからの年数と同じくらいになるのですから、しっかりと定年後のことを考えないといけませんね。ゆつくりと過ごすのもいいですが、第二の人生の始まりですので、終焉までどう生きるかを真剣に考える必要があります。その時に、家族や友人など大切な方がまわりにいれば心強いですが、現代の家事情を考えると、核家族化になり、配偶者の死亡などで「おひとりさま」になる方が増えておりますので、自分自身であとこのことを考えなければなりませんね。

特にお葬式に関しては時代とともにそのあり方が変化しています。家族が同居していた時代は、まず家族でそのお葬

式に関してわかる年代の人がいたのであまり困らなかつたものです。さらに、サポートをする方が近隣にいらして、地域でもお世話する体制ができていました。しかし、最近では核家族化とともに地域で考えるものから、家族のことにになり、さらに夫婦のことになり、最終的には自分で考える時代になったのです。そのことは「死の個人化」という言い方をされ今の葬儀事情を物語っておりますね。

「おひとりさま」は自分の亡くなったあとのことを誰に託そうかと迷います。財産の後始末のことや、誰が自分のお葬式を出してくれるのかと不安になります。そのため「終活」には早くから関心が高く、そういった不安から解消されたという思いが強いと思われます。最近ですと、そのような不安を抱えた方が当社の会館へと事前相談にいらつしやいます。以前ですと、危篤状態になつてから慌ててお葬式のことを聞きにこられるケースが多かつた事前相談ですが、今ではご自分のお葬式を考えたいということであらつしやる方が増えました。実際に家族がおらず、身内といつても甥や姪にお世話にならなくてはいけないという方が多く、経済面で大きく負担をかける

ようになるので、頼みづらいという気持ち
が起きます。だからといって友人に頼む
ことも図々しいように思えて頼みにくい
ことも事実ですね。私の身近なところで
もこのような問題は起きていました。子
供のいない方が長い間別居中の旦那様と
籍を抜き、内縁の夫という方と入籍した
のですが、その時にはもう余命があまり
ない病状だったのです。継承者もいない
し、お付き合ひのあるお寺さんもないの
で、まず亡くなったあとどこに納骨した
らいいのかと不安になったそうです。内
縁の夫であつたため、その方のご親戚には
なかなか相談もできず、やっと姪の方に
頼んでお寺を紹介してもらい、永代供養
というかたちで合祀墓に納骨できるよ
うになったというこゝでした。このよう
な例は現代には珍しくもないケースなの
ではないでしょうか。

今はまだ先の話しと思つていても、あの
大震災のようにいつ「その時」がやってく

るのかは誰にもわかりません。だからこそ元氣なうちに、「その時」のことを話し合つておくことが大事なんです。でも「おひとりさま」はその話し合う相手がいないのですから不安は大きいと思います。それではどうすればいいのでしょうか。その不安を解消するために、社会には「成年後見制度」というものがあります。例えば認知症で判断ができなくなつた時に、介護のことや終末期医療のこと、また葬儀のことやお墓のことなど、本人に代わつてそれぞれの専門分野に希望を伝えて手続きをすすめてくれる制度です。この制度を利用すれば誰に介護してもらいたい、延命措置はしてほしくない、お墓の継承者がいないので散骨してほしいなどの希望をかなえることができます。昔から、「遠くの親戚より近くの他人」と申しますが、このご時世、ご自分の終焉を話し合える方を持てるようにないたいですね。

終活カウンセラー
遠藤 清子（えんどうきよこ）
一般社団法人終活カウンセラー協会
認定終活カウンセラーとして活躍。株式
会社ごんきや営業課長。一男一女の母。

楽天
I C H I B A

日本最大級の通販オンラインショップ
楽天市場にて仏壇・仏具・お線香など販売中

取扱点数2500点以上

お仏壇百貨店

<http://www.rakuten.co.jp/gonkiya/>

JR仙石線「西塩釜駅」より徒歩4分

セレモニア塩釜
楠会館



塩釜市南町7-32
TEL:022-367-7777

塩釜

あの人のことだけ想う場所

セレモニア

大切な方をお送りするその人生で最も感動的な日に大切な方のことだけ想うその時、その場所。

祈る心を大切に、
ごんきやが真心込めて
お手伝いいたします。